

報 告 書

開催日時	平成25年11月15日（金）午後3時～4時20分	
開催場所	市役所第3会議室	
出席議員	挨拶 菅原悟班長（総務常任委員会委員長）	
	司会進行	菅野 稔
	報告者	佐竹 強
	記録者	藤倉泰治
	議員	小松眞、千田勝治
参加人数	防犯協会連合会、交通安全協会陸前高田地区分会連合会、交通指導隊員等25名	
懇談テーマ	生活、安全について	
主な要望 ・ 提言等	<p>◎意見交換全体の状況</p> <p>防犯協会、交通安全協会の役員や交通指導員の方々25名の出席があり、地域の生活や安全について、のべ22名から活発な発言が寄せられた。とくに、震災後、大きく変わった地域の状況を的確に把握し、防犯灯設置、経費負担や、交通安全に関する意見、提言が多く寄せられた。全体として共通する発言、主な要望や提言は次のとおりです。</p> <p>◎防犯灯設置及び電気料負担等に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 震災後、地域の状況が大きく変わり、防犯活動の重要性が強調され、とくに防犯灯の設置についての意見、要望の発言が多く出された。 ・ 震災後、高台などに家が増え暗い場所も多く、怖いような場所もあるとの発言をうけ、竹駒地区など交通量が激増し、危険箇所が増え防犯や安全上不安との指摘があった。そのことから、防犯灯設置の要望と、新たな設置ルールや仕組みの必要性を求める意見があった。 ・ 防犯灯の電気料の負担の問題について、各地区各方面から意見が相次ぎ議論になった。 ・ 現在、防犯灯設置や電気料負担が地元負担になっていることについて、とくに、被災世帯などに負担を求めることができない事情について地元、防犯協会から意見があった。 ・ また、電気料負担がかさむことによって防犯協会やコミセン等の財政を圧迫しているという訴えも多くあった。 ・ 竹駒では市の補助や、東日本大震災の事業、社会研究財団で1年間 	

50万円の補助事業があり、2年間で100万円の交付があった。すべて100箇所くらいをLEDにしてきた。

- ・防犯灯が空白のところや必要なところでも電気料負担があるため、設置を要望していない地域もあるとの声もあった。
- ・そのような要望から、市に対する防犯灯設置と電気料負担への助成を望む声があった。
- ・竹駒の国道沿いは家がなくなっているが、暗くなっているので街灯をつけたいが、電気料の地元負担のためつける財政的余裕がない。国道沿いなどの街灯は市がルールをつくり、設置できるようにしてほしい。
- ・アップルロード沿いは、米崎地区だけの問題ではないので、市で設置を考えてほしい。アップルロードの分まで地元負担は大変だ。
- ・矢作橋に街灯をつけてほしい。
- ・防犯灯の設置経費の負担について、地区によって、防犯協会負担、地域集落負担、コミセン負担などのちがいがあり、その負担が大きな問題になっていることが議論になった。
- ・そのため、防犯灯設置の要望があっても設置経費や電気料負担のために設置できないという実情が多く寄せられた。
- ・地区によっては、NPO等の支援団体からの設置の例や、道路への街灯という地元負担なしでの設置例も出された。
- ・これらの発言をうけて、防犯灯の設置ルールや電気料負担のあり方の検討が今後の課題となった。
- ・下矢作では、国体の時3か所のうち2か所がサービスで設置になったので、多くつけすぎた。市から防犯灯をつけろといわれるが、今になった防犯協会の会計が苦しくなっている。

◎道路整備や交通事情について

- ・小友只出地区は、漁港の復旧工事でダンプなどの交通量が増え、道路がデコボコ状態。応急に簡易舗装の要望があった。工事が無い時間帯の通行や防犯灯設置の要望もあった。
- ・気仙町の安全協会もようやく復活した。地元を回っている人からカーブミラー(双六)が流されてそのままになっているという指摘をうけた。通学路としても大事なので復旧をお願いする。
- ・米崎も交通安全協会を復活しようとしている。地域をまわりはじめているが、以前あった「早め点灯」などの文字看板がつくってほしい。
- ・小友地区でもその交通安全の看板をお願いしたい。
- ・小友地区はダンプの交通量が多い。一時停止の標識がなくなって、工事の発注元として市でも関連業者を指導してほしい。

- ・竹駒地区の朝の渋滞で、渋滞の時間帯を避けようとして、朝早くダンブなどが動き出した言える傾向が見られる。
- ・アップルロードと国道 45 号の交差点に信号がやっつした。しかし、信号が付いてかえって渋滞が起きているようだ。
- ・市内の渋滞している道路には、迂回路を使うようにできないのか。迂回路が路肩などで危ないので市では通行させないようにしているのか。
- ・米崎地区の浜田川の市道の交通量が多くなった。ガードレールがないところが多く危ないので、つけてほしい。飛ばす車も多い。見通しがあるようで見えない。怖いと思う。ガードレールをぜひお願いしたい。
- ・市役所裏に車両の出入りの看板や矢印がついたが、かえって危ない。

◎子どもの交通安全について

- ・和野地区の児童の通学路の安全のため立っている。和野地区の道路は狭くて危険だ。バスや大型自動車も多い。事故が起きる前に対策をとってほしい。
- ・道路の交通量も多くなり、子どもの通学路は 10 台のうち 3 台は携帯電話を使用している運転手がいて危ない状態だ。

◎雨水、洪水対策について

- ・竹駒だけの問題ではないと思うが、ゲリラ豪雨に対する対策を。沢水があふれる減少がある。竹駒では田んぼに建物が建ってきている。市内どこでも沢水や大雨の対策が必要ではないか。沢水の氾濫に対する計画あるのか。
- ・最近、山手に造成工事がすすみ家を建てているが、その下流の流れが変わり鉄砲水が心配されるので、下流の工事もあるべきではないか。
- ・長部の養殖業者、薄い粉状（泥水）で窒息状態。環境悪化のスピードが速い。側溝にフィルターがあればいいと思う。

◎汚染牧草の保管場所についても要望があった。

- ・汚染牧草などの保管場所について説明会が 3 回あった。矢作の平根山におくのは私個人としてはやむを得ないと思うが、いざ保管場所の工事が平根山の牧草地で始まった。しかし、放牧組合に相談もないなか、牧草地の門扉が引き抜かれ、水道管もむき出しになっている。汚染牧草も組合の管理棟の両側に置いてある。前もって説明がなかった。このようなやり方はひどいと思う。今のうちに現状を見て早急に対処してほしい。
- ・もうひとつの要望は、43 町歩の牧草地は放射能汚染で放牧できないので、除染してほしい。

所 感

【菅原 悟】

交通安全協会、交通指導員、防犯協会の方々より意見交換を行なったが、各単会共通する事は得にも活動予算が乏しく行政からの更なる支援が必要と思われる。

【菅野 稔】

多くの関係団体の出席があり、活発な質疑がなされ、どの案件も身近なことで中身のある懇談会だったと思います。

防犯灯設置の課題やアップル道路の信号機設置による渋滞問題や浜田川沿いの道路へのガードレール設置要望やカーブミラーの復旧等、どの案件も安全安心なまちづくりに必要性を感じました。

【藤倉泰治】

各地区の役員や交通指導員の皆さんから、防犯や交通安全について震災後の地域の被災状況をよくつかみ、活発な発言が相次いだ。責任ある立場で活動されていると感じた。日頃の調査をもとにした貴重な提言が多くあった。震災後も、地域の復興のための市民の協働のまちづくりが進んでいると心強く感じた。

【佐竹 強】

交通安全協会と防犯協会の役員が、本報告会の対象者であるため開会当初から活発な意見、要望等が話された。特に街路灯の要望については、交通安全イコール防犯の課題である。

震災、被災後の復旧・復興途上にあるため地域の要望は限りなく出てくる筈であり、真摯に耳を傾けていかなければならない。

道路整備、交通安全のための諸設備の整備、街路の照明等総合的に、さらに市民の声に耳を傾けていく必要性を痛感した。

【小松 眞】

懇談のテーマは防犯協会、交通安全協会等を中心とした生活安全についてなので、参加者も25名と多く、多くの意見要望が出された。特に、学童の通学路の安全性、日暮れから夜間の安全性から、街灯、防犯灯の重要性と電気料の地元負担に意見が集中した。

地域によって負担割合がまちまちで(受益地区、コミセン、協会等)、安全性の確保に比例して地元負担が非常に重荷となっている。

制度の確立性の必要性を感じた。国道・県道の街灯は国/県の設置と電気料の負担を明確にし、市道における街灯・防犯灯は地域の要望を的確に把握し整備進め、地域における電気料の負担に於いても、市民の公平性の観点からも、一定のルールのもとに公平性を制度化すべきと感じた。

【千田勝治】

震災後各地域の防犯灯が被害に遭い市内の灯りも少なくなり、各地域とも道路の街路灯や防犯灯が少なく、防犯灯の早急の整備が必要であると感じられた。また、防犯灯の電気料の負担のあり方が各地区さまざまで、その維持管理料の負担軽減策が課題と感じた。

議会広聴広報特別委員会

広聴小委員会小委員長 松田 信之 殿

平成25年12月2日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成25年度議会報告会1班（総務班）

班 長 菅 原 悟

